

2011年度 学部共同研究会一覧

回 / 日 時	テーマおよび報告者
第1回 (4月7日)	立命館大学国際言語文化研究所ジェンダー研究会主催「フェミニズムシティズンシップ」 Ruth Lister 氏 (英国・ラフバラ大学社会学部名誉教授)
第2回 (6月1日)	立命館大学コリア研究センター共催「Neo-liberal Korean Society in Films & TV」 朱 恩佑氏 (韓国・中央大学社会学科副教授)
第3回 (7月5日)	＜私の研究＞ 「メディアリテラシーの歴史・現状と課題」 浪田 陽子氏 (産業社会学部准教授) 「戦後日本の知識人と音楽のメディア文化史」 粟谷 佳司氏 (産業社会学部准教授)
第4回 (7月29日)	＜私の研究＞ 「若者に対する就労支援政策の課題—いくつかの調査における主要な論点—」 櫻井 純理氏 (産業社会学部教授) 「制度論的な社会経済分析の射程：タイの家計行動に関するマイクロ個票調査をてがかりにして」 江口 友朗氏 (産業社会学部准教授)
第5回 (7月8日)	「原発事故による健康被害」—放射線の外部被曝と内部被曝、許容量とは何か 宗川 吉汪氏 (日本科学者会議京都支部事務局長・京都工芸繊維大学名誉教授) 「原発に依存しない自然エネルギー」—ドイツ・欧州の自然エネルギー買取制度、日本の太陽光発電余剰電力買取制度の問題点 竹濱 朝美氏 (産業社会学部教授)
第6回 (12月6日)	辻 勝次著『トヨタ人事方式の戦後史※』をめぐって ※ミネルヴァ書房, 全879頁, 2011年6月出版 辻 勝次氏 (立命館大学名誉教授) コメンテーター：中川 勝雄氏 (立命館大学名誉教授)・大野 威氏 (産業社会学部教授)
第7回 (12月20日)	＜私の研究＞ 「受刑者に対するロールレタリングを用いた支援の研究—反省と更生に導くための重要な視点—」 岡本 茂樹氏 (産業社会学部教授) 「『時間』と社会政策：レジャー研究からのアプローチ」 市井 吉興氏 (産業社会学部准教授)
第8回 (1月27日)	＜私の研究＞ 「川端康成『乙女の港』鑑賞」 下條 正純氏 (産業社会学部教授) 「母音の無声化とその構造：「草」は kusa か ksa か」 平山 真奈美氏 (産業社会学部准教授)
第9回 (1月20日)	「島」（奄美群島）の新聞記者の仕事とその課題、および「島」の新聞記者からみた「島」の現状」 久岡 学氏 (南海日日新聞記者)
第10回 (2月20日)	'Debates on the legitimacy of human rights' Robert Fine 氏 (英国・ウォーリック大学名誉教授)
第11回 (3月6日)	＜定年退職記念研究会＞ 「私の研究教育と産社」 池内 靖子氏 (産業社会学部教授) 高木 正朗氏 (産業社会学部教授) 林 堅太郎氏 (産業社会学部教授)